

日程第2、一般質問を行います。

昨日に引き続き、通告順に発言を許します。

横山人美議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。〔3番 横山人美君登壇〕

○3番（横山人美君）

みらい創造クラブの横山人美でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問をいたします。

ひとみかがやく日本一の子どもを育むための、家庭、地域、保育、教育現場における現状と課題、並びに、課題を解決するために必要な施策について。

文部科学省が示す「子どもの育ちの現状と背景」によると、子供たちを取り巻く環境として、急激な社会構造の変化とともに、人々の価値観や生活様式が多様化する中で、人間関係の希薄化、地域社会のコミュニティ意識の衰退、過度に経済性や効率性を重視する傾向、大人優先の社会風潮などが指摘されています。

昨今、社会で取り上げられている、集団や仲間に対して働く道徳心や倫理観、社会常識の変化は、誕生から現在までの家庭環境、社会の風潮、出会った書籍や友人、教師など数えきれない様々な要因によって培われると考えます。子供たちは、家庭や社会において、人と関わり、相手の表情を読み取り、言葉を交わして思いを伝え合う中で、自分の気持ちを調整する力、物事に主体的に取り組み、粘り強く頑張る力、そして、他者と協調していく力などを身につけていくことが理想です。しかし、現実には、子供たちのみならず、子供たちを支える大人にもそれらの力を身につける機会が減少し、困難に陥るケースが多くなっているのではないのでしょうか。

糸魚川市子ども一貫教育が目指す「わがいといがわのひとづくり」において、一人一人の子供たちを「ひとみかがやく日本一の子ども」に育てるために、家庭、地域、保育、教育現場において必要なことを共に考えたく、以下の質問をいたします。

- (1) 家庭における現状と課題として、子供たちを取り巻くインターネット環境が心身に及ぼす影響と実態について伺います。
- (2) 地域における現状と課題として、第2次糸魚川市子ども読書活動推進計画の成果と課題、今後の展望について伺います。
- (3) 保育園、幼稚園における現状と課題として、保育士、幼稚園教諭の働き方の改善について伺います。
- (4) 学校における現状と課題として、子供たち一人一人に合った学ぶ力を育てるために工夫されていること、必要なことについて伺います。

以上、1回目の質問をお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

蘆本教育長。〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

横山議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、実態として、スマートフォンやタブレットの使用年齢が低年齢化しており、使用時間も小学校高学年以降で長時間使用する割合が増加しております。

また、影響として、長時間使用による生活リズムの乱れ、体力や学力、視力、コミュニケーション能力などの低下が懸念されております。

2点目につきましては、成果としては学校と図書館の連携により、学校図書館にない図書の提供や、調べもの学習などに必要な資料の相談など、協力体制の強化を図ることができたと考えております。

課題としては、読み聞かせボランティアが減少傾向であり、回数の維持ができなくなるといった懸念があることから、新たなボランティアの育成を図っていく必要があると考えております。子供の読書環境の整備に向け、引き続き関係機関が連携し、活動の推進に取り組んでまいります。

3点目につきましては、保育士等の離職防止と職場環境を改善するための外部アドバイザーや業務支援職員を配置するとともに、ICTを取り入れた業務改善に向けて、各園における記録の作成や日常業務の見直しに取り組んでおります。

4点目につきましては、教員同士が連携し、事業改善や指導力の向上を図ることで、誰一人取り残すことのない学びの実現を目指して、鋭意努力して進めております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、どうぞよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

それでは、（1）番から2回目の質問をいたしたいと思います。

（1）世界保健機関WHOは、2019年にゲームに熱中し、利用時間などを自分でコントロールできなくなり、日常生活に支障が出る病気、ゲーム障害を国際疾病として正式に認定しております。こちらは、ギャンブル依存や薬物依存と同じ精神疾患と位置づけております。

糸魚川市で子供たちを取り巻くインターネット環境が、心身に及ぼす影響についての相談は、どのような形で受け付けていらっしゃいますか。

また、相談件数、それから並びに、件数の推移について把握していらっしゃいますでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

おはようございます。

お答えいたします。

学校現場のことについて、お答えさせていただきますが、健康相談につきましては、各学校で学級担任や、また管理職が窓口となりまして、養護教諭と連携して、相談しております。

相談件数については把握しておりませんが、メディアの長時間利用と低年齢化に伴って、視力やそういった生活リズムの乱れなどの相談が多くなっていると聞いております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

相談件数については把握されていないということなのですが、こちら来談にいらっしゃるのは、保護者でしょうか、それとも子供たち自身が困ってるというような訴えがありますでしょうか。そちらをお聞かせいただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

学校での相談につきましては、保護者からの相談がやっば多くなっております。そちらのほうは、学校のほうに保護者の皆さんも困り感を持って、担任とか子供たちの成長についての悩みを、ということであります。

児童生徒からの相談もありますが、そういった悩み等、保健室で受けることが多いんですが、生活リズムが乱れていて、授業中眠くなったりとか体調を崩してというふうな、保健室で悩みを聞くような機会が多くなっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

ぜひともこのインターネットが原因の来談についての統計を、取っていただくということが大切なのではないかと感じております。日々、子供たちと私も関わる中で、ネット環境が及ぼす影響を目の当たりにして、子供たちの社会性を含めた生きる力の育ちに、私は危機感を感じております。

実際、家族から、お子さんのネット依存への相談を受ける機会もございます。そのような子供たちとも、学習を通して付き合っておるわけですが、一対一で直接目の前で向き合っても集中できず、気持ちや心がさまよっていたり、あと、どこにも落ち着けない様子が見て取れます。そして、そのお子さん本人も何とかしたいと困り感を抱えながら、気持ちと行動が一致しない自分に自信をなくしているようにも思えます。

依存までは至らなくても、ネット環境が原因で不登校や無気力、不安などを抱えるケースも少なくはないと感じていますが、こども課、こども教育課としては、こちらどのようなものが背景だと捉えていらっしゃいますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

ネット環境が原因で不登校や無気力ということで、そういったお子さんが最近、低年齢化して増えてきているというような状況は、全国的にもそうなのですが、糸魚川市でも同じような状況があると捉えております。ネット環境そのものというよりも、やはりメディアの長時間利用や、そういったことの低年齢化、また常習的に利用することによって脳の活動が低下したりとか、自律神経が正常に働かない症状になると言われております。

背景には、自分自身、またそして家族によってなかなか自制できない、先ほどネット依存の病気という症状、お話にありましたけども、やはり自分ではなかなか自制できない。そういった状況も考えられると捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

そのような子供たちを支援していくために、本当に必要なことは何と捉えていらっしゃるでしょうか。また、行政側として支援する人材は、足りていますでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

まず、やっぱり大切なことは、その困っているお子さんの気持ちに寄り添って対応することだというふうに考えております。周りの大人も、いきなり依存しているようなお子さんに、ゲームをするなみたいに怒ったりとか乱暴に対応することで、余計に症状が悪化してしまうこともありますので、やはり本人の困り感にしっかりと寄り添って、そして共に解決策を考えていくような対応が大切と捉えております。

また、健康のために正しい知識、そういった普及活動も重要になります。子供たちを直接指導していただくのは親御さん、保護者の皆さんにもなりますので、そういった意味では、市では各家庭でメディアのルール等について決めていただくような機会を設けたり、それから、親子と一緒に健康づくりを進めていただくような事業なども進めております。今後も、保護者の皆様の、そういった大変さ、しんどさにも寄り添いながら進めていくことが大切と考えております。

また、人材について、今お話もありましたけども、今、市のほうでは、それぞれの適材適所で一生懸命活動していただいているところなんですけども、やはり誰でもいいってわけにいかないもので、そういったしっかりと対応できるような皆さん、もう一人いればというような声も聞こえてくる実情もございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

ゲームなんてやりたくてやってるわけじゃないよと言いつつ、ゲームから離れられない市内の中学生と私は向き合っております。その子との対話の中で見えてくるものは、もっと話を聞いてほしい。そして、自分を見てほしいという家族に対する募る思いでございます。ゲーム依存傾向の子供たち全てに当てはまる事例ではないと思いますが、人が依存傾向に陥る原因は、ストレスでありますとか寂しさ、つまらなさ、生育環境、そして、存在への不安などが挙げられます。

依存症は、孤独の病気とも言われております。ゲーム機やスマホを手放せない子の多くは、つらいことを抱えている子と仮説を立てて、子供たちにネット環境を最初に与える場が家庭であることから、まずは子供たちが家庭の中でつらさや寂しさを抱えないような環境、家族の関係性の見直しへの働きかけが必要ではないかと考えております。そこを解消するような家族支援のプログラム、先ほど健康づくりとかそういうものありましたが、家族支援のプログラムの導入が必要と考えますが、糸魚川市では、健康づくりのほかに、ネットに関してルールづくりのほかに何か取組はされていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

学校のほうでは、必要に応じて教育相談員とかスクールカウンセラーなどが、保護者の教育相談等に当たっております。

横山議員の仮説のように、保護者が子供たちとの関わり方を振り返ったりとか、自身の子供との関わり方を見直していただけるような啓発の場を工夫していくことは、大変重要なことだと考えております。

現在のところ、議員がおっしゃるような、そういった支援のプログラムみたいなものはございませんが、相談などで関わる職員が、研修会等で関わり方について学んだり、それから専門の医療機関などと連携して、保護者対象のPTAの講演会とか研修会等の講師として来ていただくような機会を企画したりしながら、いろんな関わり方、ネット依存への対応の仕方等を保護者の皆さんと一緒に考えていくような機会を設けております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

依存症の問題においては、依存している人以上に、今、課長さんおっしゃったとおり、家族が困難を抱えて、気持ちにゆとりを失ってしまっております。気持ちのゆとりを失った家族は、どうしてもこの場合ですと、子供たちを責めるような形になってしまう。例えばクラフトとあって、依存症家族向けプログラムがございますが、そのようなものも取り入れていただくのも、またご検討いただければと思います。専門家の配置にも、やはりより厚い予算の当て方でありまして、子供た

ちと家族への支援や、精神疾患に陥らないような働きかけをお願いしたいと思います。

では次に、(2)番の質問に移りたいと思います。

地域における現状と課題としてということですが、第2次子ども読書活動推進計画は、2016年度から2023年度、来年度までが対象期間となり、子供の読書を推進するために、家庭、地域、園、学校、図書館と、各主体において方策が示されております。

まず、家庭における家読(うちどく)について、推進するためにどのようなことに取り組んでいらっしゃるでしょうか。評価している点は何でしょうか。また、課題はございますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長(松尾徹郎君)

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長(穂苺 真君)

おはようございます。

お答えいたします。

推進について、どのように取り組んでいるかということで、まず、ホームページや館内掲示等で周知のほうは実施をしております。成果については、なかなか把握するということが難しい部分ではありますが、ブックスタートですとか、読み聞かせの取組等を行っておりますが、その中で、保護者の皆さんに、幼少期における絵本の大切さといいますか、触れ合いの大切さというものを理解していただけるというふうに感じてはおります。

また、これまでの家読(うちどく)に特化しての周知が不足しているというのは、否めないということを感じておりますので、読み聞かせの実施時に合わせて周知をするとか、また啓発方法について検討するとかということは、今後の課題かなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長(松尾徹郎君)

横山議員。

○3番(横山人美君)

子どもの読書活動推進に関する法律では、4月23日を子ども読書の日と定め、糸魚川市では、家読(うちどく)の日となっております。なかなか周知とか徹底とか、そのようにまだ課題があるということなのですが、こちらは今後どのように推奨されていけますか。来月になりますが、来月に向けてどのような取組をなさっていくかと計画されてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長(松尾徹郎君)

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長(穂苺 真君)

お答えをいたします。

この取組につきましては、まず、テレビを見ない、ゲームをしないで、親子で本を親しもうということで始めたものでございます。ホームページや館内掲示でも周知は行っておるんですが、なかなか市民の皆様に対しては、認知度が高くないというふうに感じております。

また、こちらについては、学校でもノーメディアデーというような取組を行っているということ

もお聞きしておりますので、また学校や関係機関との連携を持って、見直しを図りながら進めてまいりたいと思っております。

また、来月ということでお話をいただきましたが、啓発等は見直すということは先ほど申し上げましたが、そのほかにも図書館のほうで、その時期に合わせた設置のレイアウトを変更するなどして、やっていきたいなというふうに考えておりますし、またちょうどこの日が、子ども読書週間の初日でもありますことから、その周知と併せて大々的なものができればというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

家族で読みたい本を選び、時間を共有し、読んだ本について感じたことを話すことを家読（うちどく）と糸魚川市も定義されています。とてもいい取組だと、私は考えます。

ここで強調したいのは、読書によって高まる非認知能力のことです。子供の頃の読書活動の効果に関する調査研究によりますと、最後までやり遂げる力、目標を達成するために頑張る力、発想力、他人への思いやりなどの非認知能力は、紙媒体で読書をしている人が最も高い傾向にあることが明らかになっております。文字を読み進めながら、お母さんとかお父さんとかおうちのひとと文字を読み進めながら、場面を想像したり、読み聞かせをしてもらいながら、絵本の中の動かない絵を、その子なりに思い思いに絵を動かしてみたり、心を動かしていく経験、まさに想像力が養われる要素と親子の愛着形成の要素が、ふんだんに家読（うちどく）の中にはあると思っております。

文部科学省の委託調査にも、子供に読書習慣を身につけさせる方法として最も有効なものが、家族と一緒に本を読んだり、図書館や本屋へ連れて行ったりしてくれることが最も多く、51.1%の結果が出ております。次いで、家の中で手に取りやすいところに本が置かれていること。

このように読書をすることが当たり前の家庭環境をつくることの大切さが分かります。子供たちの非認知能力を高めるためにも、家読（うちどく）のより一層の広がり浸透を望みたいところでございます。

では次に、同じく家庭が主体になっている読み聞かせ事業への参加について、まず、実績と課題があれば、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苅生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苅 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苅 真君）

お答えをいたします。

現状ということでございます。現在、図書館の利用の促進と本に親しむ習慣づくりということを目的に、能生、糸魚川、青海の3地域で、月2回行っております。年間大体50回程度ということで、年間400人程度の皆さんから参加をいただいております。コロナ禍の影響もありましたので、ここ数年はちょっと低くなっておるんですが、今年度から若干、回復の傾向があるというふうに

考えております。

ただ、課題といたしましては、やはり周知不足の部分もあるのかなとは思っておりますが、なかなか新しい方がお越しいただけない。固定されたメンバーになっているというようなことが課題かなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

なかなか新しいメンバーが入ってこないということで。

では、参加するメンバーの固定化を解消するために、どのような取組をなさっていらっしゃいますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苺 真君）

お答えをいたします。

パパママメールですとか、LINEですとかで周知等を図っているんですが、なかなか、というのは、先ほども申し上げさせていただきました。どのような形で周知、広げていけばいいかというのは、また検討させていただきたいなというふうに思っておりますが、今の段階で考えられるのは、やはり参加していただける方の口コミといいますか、評判といいますか、そういうもので広めていくのがなかなか速くて広まりが早いのかなというふうに考えてはおります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

口コミで広まるのが、本当どんな事業においても口コミというのは強いなというふうに私も感じております。例えば固定化したメンバーの解消には、読み聞かせに興味を示さない保護者さんも多いのではないかと思います。例えば読み聞かせプラスアルファの育児に関する情報やイベントと組み合わせるとか、あと期間限定ですよと呼びかけてみるとか、先着何名様ですよというふうに呼びかけてみる。これは行動心理学の損失回避の傾向というものなんですが、それを応用して、このチャンスを逃したくないとか、あと損をしたくないという人間の心理に働きかけてみるというのも一つの方法ではないかをご提案をさせていただきたいと思っております。

1番目の質問のように、子供たちの周りには、生まれたときから映像・メディアが氾濫しております。想像力をつける前にメディアに慣れてしまうと、想像力を使って物事を考えるのが面倒だと感じるようになるとも言われております。読み聞かせはゼロ歳からと言われるゆえんが、ここにあるのかもしれませんが、ぜひ多くの家庭で、読み聞かせが続くような施策の展開をお願いしたいところでございます。

では次に、方策の中の読書推進のための幼稚園教諭や保育士への支援への実態はいかがでしょうか

か。どれくらいの頻度で研修が行われ、その成果は、どのように示されていらっしゃるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苺 真君）

お答えをいたします。

各園での研修によって、指導力の向上には取り組んでおります。研修によって、幼少期からの本との触れ合いが大切であるということは、職員の間で意識確認が図られて、園の活動に絵本や読み聞かせを取り入れてということで実践されておるといふふうにお聞きしております。今後も園の現状を把握しながら、どのような協力ができるか、どういうふうに、できることがあるのかということを探っていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

しっかり連携されているということで、理解いたしました。

私も幼稚園教諭だったことがありますけども、絵本の持ち方とかページの送り方とか、絵本や紙芝居の選定など、職員さんのスキルアップにつながるだけでなく、子供たちの大好きな時間の一つを充実できるような施策を大切に育てていただきたいと思います。

では次に、方策の中の学校における読書に親しむための環境整備について、全職員が連携協力して読書指導ができるような校内体制づくりとは、具体的にどのように進めていらっしゃいましたか。先ほどの教育長の答弁では、うまくいったということですが、どのように進めていらっしゃったか。

また、図書担当の先生と学校司書との連携は、どのような形で行われていらっしゃいますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

各学校において、そういった読書、図書、図書館教育の推進ですが、担当者が中心となりまして、読書指導を推進しております。

また、本の選定に当たっては、全教職員がそういった選定に当たれるように、期間を限定しながらいろんな本に、見ながら選べる場を設定するような形でやっております。

また、読み聞かせについても、各職員が行うなどの工夫した取組が定着してきております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

学校司書さんは、今現在3人いらっしゃると思うんですが、司書さんの勤務形態をお聞かせいただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

司書の勤務形態ということでございますが、市の会計年度任用職員として週5日間、拠点校がございまして、拠点校で3日、それから巡回校ということで周りの学校を回りながら2日間勤務を原則に、勤務いただいております。書架の整理などの環境整備や、それから本を選ぶ際の助言、それから心の、教室にいれなくなったお子さんを少し読書しながら待っていただくとか、そういった対応を行っていただいております。

また、学校のみならず、正式な依頼があれば、幼稚園や、それから保育園等での読み聞かせを行っていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

拠点校があって、市内の小中学校、幼稚園も回っておられるということですが、この人材は、3人で足りていますでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

今のところ3人で、それぞれの学校を回っていただいておりますが、いろんな業務や、最近では、図書室に少しお子さんを預かっていただくような、少しそういった取組も増えてきているために、いろんなところでもう少し来ていただける日を増やしていただけないかという声も聞こえてきております。

3人の皆さんと少し面談をしながら、今の現状をしっかりと把握して、どのように今後していくかって辺りを、こちらもまた調査研究してまいりたいと考えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

学校司書さんは、本の貸し借り、管理だけではなく、レファレンスや、今ほど課長さんおっしゃ

ったように、学校によっては国語の時間を使って司書さんが子供たちに読み聞かせをするなど、子供たちの信頼関係が深まるにつれて、校内でも司書の役割を超えた子供たちへの支援がなされていると思います。計画の中ではうまくいった点ということですが、子供たちの成長を長く見守る人材を育てることが、子供たちへの読書の質や量を高めることにもつながると思います。学校司書の方の人材確保と、さらなる待遇改善も併せてお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

学校司書の確保は、重要なことと捉えております。

ただ、なかなか人材の確保、確保できないような状況もございますことから、当面は学校司書、各校の図書館教育の担当者、図書館との連携を一層強化して、本を通した子供たちへの成長支援を見守ってまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

ぜひともよろしく願いいたします。

では次に、市内には子供たちの読書推進のために、先ほど課題に挙げていらっしゃいました連携協力してくださる読書ボランティアの方々や団体があります。まず、このような方々の活動内容をお聞かせいただけますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苺 真君）

お答えいたします。

市内には3つのボランティア団体がございます。それぞれ3つの地域の図書館において定期的に読み聞かせを行っていただいております。先ほどもご紹介をさせていただきましたが、月2回、年50回程度ということで活動していただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

そのようなボランティアの方々の活動を、糸魚川市はどのように現在支援されていますか。

また、活動を続けてもらうには、何が必要とお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苺 真君）

お答えをいたします。

支援ということですが、現在、本や会場の手配ですとか、そういうことは行わせていただいております。また、開催の周知等についても、LINE等でお知らせをさせていただいております。

活動を継続していただくためにはということですが、先ほどもお話をさせていただきましたが、やはり人材の確保ということが一番の課題かなというふうに思っております。だんだん団体の方の年齢も高齢化してきており、行ける範囲ですとか、それから読み聞かせが行える回数ですとかというのが減ってきているのが実情でございますので、今後は、また団体の皆さんともお話をする中で、そのような読み聞かせのボランティアの方の育成、それからその団体の支援も可能な限り、やっていきたいなというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

本来であれば、図書館の職員さんであったり生涯学習課の職員さんも、すべきところをお手伝いをしていただいているという現状がございますよね。そのような方々に、また快く続けていただけるような支援を、ぜひとも考えていただきたいと思います。

では（3）の質問に移りたいと思います。

保育園、幼稚園における現状と課題としてということですが、昨年3月の一般質問で、職員の働き方改革について幾つか質問をいたしました。

まず、会計年度任用職員を含めて、待遇改善は、昨年とどのように変わりましたでしょうか。昨年は、国の補助事業になったので、待遇改善に努めるとご答弁をいただきました。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

おはようございます。

令和4年の2月から、国の経済対策といたしまして保育士や幼稚園教諭等を対象にいたしまして、収入を3%程度、月額にいたしますと9,000円程度引き上げるための措置が実施されたところであります。

糸魚川市の公立の幼稚園、また保育園におきましては、正職員を除きます会計年度任用職員、また、代替の職員というのもお願いしておりまして、そういった方々を対象に賃金を3%程度増額したところであります。

なお、こちらにつきましては、保育士、幼稚園教諭以外の、例えばそういった施設のほうには、保育の補助に当たる方とか調理員の方もいらっしゃいますので、そういった方々もそちらのほうの

対象として、処遇の改善に努めております。

また、私立の保育園も、市内にはあります。そちらにつきましても同様の趣旨で、基準額に基づき、市から令和4年の9月まで補助金ということで交付いたしました。令和4年の10月以降は、国のほうから保育等にかかる費用、公定価格と呼んでおりますが、そちらのほうに処遇改善の部分が反映したところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

正職員、それから会計年度任用職員にかかわらず、関わる全ての方々にある一定程度の補助がなされているということで、理解いたしました。それでよろしいですか。すいません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

先ほど公立の保育園、幼稚園につきましてもの処遇改善の対象につきましては、正職員を除く、会計年度任用職員、また代替職員が対象としたところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

理解いたしました。ありがとうございます。

では次に、糸魚川市の保育士、幼稚園教諭の平均的な勤続年数はどれくらいでしょうか、お聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

平均をいたしますと、昨年、令和4年の4月1日現在になりますが、勤続年数で約16年ということとなっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

平均勤続年数約16年ということで理解いたしました。こちらは、正規の職員さんだけでしょうか。会計年度任用職員さんの分は含まれていない平均でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

今ほどお答えさせていただきましたのは正職員の部分ということになりまして、会計年度任用職員につきましては、少し今、資料のほうを持ち合わせていない状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

また、会計年度任用職員さんの働き方の状態というのも私また知りたいと思いますので、また聞かせていただければと思います。

では次に、ICTを活用した事務改善は進みましたでしょうか。進まない課題があるとしたら、何とお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

保育支援システムと呼ばれますシステムを使ったICT化までには至ってはおりませんが、少しでも業務を改善しようという業務支援ツールというのがございます。例えばLINEのような、お互いにチャット機能が使える、職員間の連携を図るようなLOGOチャットを有したものであるとか、あとそういったツールといいますか道具を使いまして、勤務等の管理の効率化にも図っているところであります。

また、現在、業務効率化を進めるために、各園で保存だとか、あと実際に日々の活動で利用しております各種書類であるとか記録、そういったものの洗い出しといいますか、こういった業務があるだろうかということ等を改善、見直しに向けた準備を行っているところであります。

また、デジタル化に備えまして、民間事業者とも連携をしているところであります。

また、1つ課題ということでもありますけども、なかなかICT端末、今まで例えば手書きだったものが急に機械に変わるということに対する、自分がそこまで技術があるだろうかとか、やはりそういった機械に対する若干の抵抗感というのがあったり、もしかするとそのデジタル化によりまして、保育のほうの質が変わるんじゃないかというふうなお気持ちをお持ちの方もいらっしゃるかと思いますので、そういった部分につきましては、利点の部分、またデメリットの部分もあるかと思っておりますが、そういったことも総合的に判断して、業務のほうを進めてまいりたいというふう考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

このICT化、業務改善をするためには必要なことだと考えております。現場の先生方の働く環境と併せて、やはり現場の先生方のお声もしっかり聞きながら、そごのないように進めていただければと思っております。

では、働き方の環境整備として、保育現場から一番求められているものは今なんでしょうか。直接現場で、保育士さんのお声を聞くことを続けていらっしゃいますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

現場のほうからの要望といいますか、求められてる声ということでございますが、保育現場のほうから求められるものとしたしましては、保育士等の職員の確保であるとか、保育の記録にかかる時間、負担の軽減を少しでも図れないだろうかといったような声が届いております。こちらのほうにつきましては、園長を中心に、各園におきまして現状等を把握いたしまして、毎月、全園長が出席いたします保育連絡会議というのがございます。そちらのほうで情報共有を図っていることに加え、こども課の職員によりまして、各園に訪問しまして、それぞれ訪問であるとか、園職員によりましてこども課への相談支援を行っているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

園長先生だけではなく、やはり現場でしっかりと子供たちと向き合ってください先生方とのコミュニケーションを、引き続きお願いしたいところでございます。

現場とのコミュニケーションとして、課長さんでございませうか次長さん、あと教育長さんが、公立・私立の現場で働く職員さんの様子を見に行かれる機会はございますでしょうか。あるとすれば、どれぐらいの頻度で訪問されていらっしゃいますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

定期的な訪問というのは行ってない状況であります。機会を捉えまして、保育職員の様子に加えまして、子供たちの様子というものを見るために、時期を捉えまして訪問しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

ぜひともまた、それを続けていただきたいと思います。

昨年は、全国的に保育園、幼稚園の職員による園児虐待がクローズアップされました。虐待行為を私は肯定するわけではございませんが、この問題で考えなければならないことは、虐待行為そのものだけではなく、その職員がそこに至るまでの背景、働く環境の改善が進まないことが大きく影響しているのではないかと仮説を立てて検証することが、大切だと私は思っております。子供たちの健全な育ちのための保育士、幼稚園教諭の働き方の改善が急務であると考えます。

2月6日の日本経済新聞に、潜在保育士が有資格者の6割に達し、ほかの資格と比べて潜在の割合が大きく突出していると報じられておりました。資格登録のみで100万人を超えたそうです。賃上げの面で、自治体独自で待遇改善を図る千葉県松戸モデル、こちらは勤務年数に応じ、昇給とは別に賃金を加算するといった施策も紹介されておりました。

糸魚川市においても、ほかの自治体の施策を研究・応用し、子供たちがなれ親しんだ先生が、途中で辞めることなく長く働き続けられる環境整備をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

やはりいろんな職場がございますが、やはりそこで仕事を続けられるためには、やりがいという部分が一番だというふうに考えておりますが、やはりそれ以外の待遇という部分というものも継続できる一つの要素だというふうに考えております。

市のほうでは、正職員、また会計年度任用職員ということで、それぞれ職種が異なる部分がありますが、そういった他の自治体を見る中で、働きやすい、またやりがいを感じるような職場づくりのほうに努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

ぜひともよろしく願いいたします。

では、（4）番の質問に移りたいと思います。

学校における現状と課題について。令和4年4月に実施した全国学力・学習状況調査結果では、糸魚川市において国語、数学・算数、理科、全てにおいて小学校6年生も中学校3年生も、全国平均より残念ながら点数が下回っております。特に算数・数学において課題が見られると思いますが、解消するために学校でどのようなことを取り組んでいらっしゃいますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

議員ご指摘のとおり、算数・数学の正答率については、市の課題となっております。

各学校におきましては、小学校6年生、中学校3年生がテストするわけですが、その学年だけではなくて、全校体制で自分の学校の課題、それを明確にして、その課題解決に向けて授業改善に取り組んでいただいています。小学校、中学校ともに、理由を筋道立てて考えて説明する問題、そういった部分の正答率が低かったことが分かっております。算数や数学では、自分の考えを説明する場面や、それから学び合う場面、日常生活と結びつけて考えるような場面などの授業改善を図っていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

私も受験生を20年以上毎年送り出しておるんですが、この時期になりますと、受験が近くなりますと、中学3年生特になんですけども、ほかの教科よりやはり数学ばかりを心配して勉強したがる傾向があるんですね。私、また中学校でも数学のクラスを担当して教えた経験もございますが、数学に親しめる生徒とそうではない生徒の差がやはり大きくて、チームティーチングを組んでもカバーし切れない現状があると実感いたしました経験があります。

学校で学ぶ基礎、類題に応用して、数や図形の楽しさを知ったり、解ける喜びを味わったりする時間が、学校の中ではやはり取れないのではないかと心配しておりますが、その点については、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

今年度の全国学力・学習状況調査では、数学を好きと回答した生徒ですが、53%となっております。好き嫌いが二極化しているような状況でございます。

生徒は、日々の学習、それから部活動で忙しく、時間を限られているんですけども、それぞれ学習の目的や目標を明確にしながら、学ぶ楽しさや、できる喜びを実感できるような授業づくり、授業改善を推進しております。

ちなみに今年度なんですけど、糸魚川市に県の補助を頂きまして、数学の学力専門官、学力の向上のための専門官を配置ということで、1人中心になって、数学の授業を改善していく、学力を上げていくための取組をしております。それぞれ4中学校の授業を見ていただきながら、それぞれ同じような授業改善をしていけるように、それぞれの授業が少しでも分かりやすく、そして子供たちの学びにつながっていけるような取組を今年度、展開しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

工夫されている点、取り組まれている点、理解いたしました。今回の学力の調査には、教科はなかったんですけども、2021年から改定された英語の教科書、中学校における英語の教科書について、こちらボリュームも内容もとても大きく増えたと思っております。単語は、旧教科書の中学校3年間では1,200語だったところが、新しい教科書は2,500語と倍増しております。

ちなみに、ゆとり世代は900語だったという経緯もございますが、高校英語の文法も中2まで下りてきており、教科書改訂してから、子供たちの学校での英語に対する様子はどのようなものか心配しておりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

今、議員おっしゃったように、小学校で習う英語、そういったものも加えますと、中学校卒業までに2,500語習う計算となります。単語の数の増加に伴いまして、英文の量も大幅に増えてきていると聞いております。そのため発音や文法、そして語彙といった言語事項に偏った指導となりますと、英語嫌いが増えたりとか、それから話せない、書けないといった状況に陥ることが考えられます。そのため各学校ではコミュニケーション中心の活動を、言語活動等、しっかりと両輪として位置づけまして、両方のバランスを意識しながら、子供たちが楽しみながら耳でも聞いて発音したり、自分のしゃべる英語が相手に通じたとか、最近ではオンラインで海外とつながったり、他校の生徒と英語で交流したりとか、そういった学校も活動も工夫してやっていただいているということ聞いております。そういったコミュニケーション中心の活動を展開しながら、英語を好きになって、自信を持っていただけるように取り組んでいただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

今ほど課長さんおっしゃったように、小学校で英語に触れるようになったとはいえ、基本は言語学習ですから、耳に慣れ、長く親しんでいる生徒さん、例えば早期教育をされている生徒さんのほうが、やはり親しみやすく、習ってこられなかった方には、格差の出やすい教科なのではないかなというふうに心配しております。この点についても、またしっかりとフォローしていただきながら、学習を進めていただければと思います。

では次に、不登校、登校渋りをしている子供たちに対する学習支援、学力保障は、どのようになさっていらっしゃるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

不登校、登校渋りの子供たちに対するということですが、各学校で、本人や保護者の方としっかりと相談しながら、ご意向に沿うようにという形ですが、教室以外の別室での学習、それから今ほど言いましたが、ICTとか教室と別の場所で同じような授業を見ることもできますので、そういったICTを活用して、別室や家庭から授業に参加できるような機会をつくったりしております。また、市の適応指導教室での学習支援も行っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

私も不登校の生徒さんとも向き合っておるんですけども、やはり学校に向かえない子供たちが抱える不安の中には、学習だけではない様々な不安があると思うんですね。そこにまた学習への遅れが加わらないような学校、そして家庭、そして地域を巻き込んだ支援が必要であると考えております。ぜひとも、また、そのようなお子さんたちにも不安が広がらないような支援をお願いしたいと思います。

では次に、全体を通して子供たちの学ぶ力を育てるために一番必要なことは何と捉えていらっしゃいますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

子供たちの学ぶ力を育てるために一番というふうにおっしゃいましたが、なかなかこの辺は、一つだけ限定というふうには難しい部分がございます。教育にはいろんな要素が関わってまいりますので一概には言えないんですが、糸魚川市のほうでは、現在そういった学級づくり、温かな集団ですね。議員おっしゃるように、子供たちが、不安とかそういったものを抱えながら学級で過ごすことがないように、温かな学級づくり、学校づくりを目指して取り組んでおります。そちらの温かな環境と、それから授業改善という2本柱ですること、そういった温かい環境があるから、そこで学ぶことによって学力が伸びてくると。そういうふうなところを目指してるところです。本人の努力や、それから成長が、適切なタイミングで教師から褒めてもらったりとか、仲間から認めてもらったりとか、そういった温かな環境が、また次もやってみようとか、そういった意欲にまたつながってくると捉えております。そういったことを大切にしながら、学力の部分にも力を入れていき、子供たち一人一人の学び、それから夢の実現に向けて努力していただいているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

4番目の質問でお伝えしたいことは、点数の高い低いではなく、子供たちが学ぼうとする力をど

う引き出していくかだと考えております。子供たちの学ぶ力を支えることは、生きる力を支えることにつながると考えております。地域の子供たちと長く関わり続ける中で、登下校に笑顔が少なく、うつむきがちに歩く小学生がいたり、おとなしく、なかなか自己主張の少ない中学生が多くなったのではないかなと、私は感じております。

子供らしさを一概には語れませんが、先ほど2番目の質問でお伝えした非認知能力、やり遂げる力、頑張る力、発想力、他人への思いやりが、子供たちの中に育ちにくくなっているのではないのでしょうかと心配しております。子供の気持ちに共感し、自信を持たせる働きかけや一人一人の子供たちの好奇心を尊重すること、これは言葉にすることは簡単ですが、実際に子供たちと向き合うことは、容易ではございません。糸魚川市の保育、教育行政において、今定例会でも多くの議員が取り上げている子育て支援にいろいろな課題をつなげていくのであれば、まずは、担当課はもちろん、全庁挙げて、地域も巻き込み、子供たちの一番近くにいる大人になることを目指していきませんか。

今、子供たちは何を思い、考え、どんな行動をしているのか、実際に子供たちを目の前にして、言葉を交わして、触れ合って、心を受け取ってほしいと願っております。子供たちがいる現場に足を運んで様子を見ながら、未来へ向けて前向きな施策や必要性を議論することが大切なのではないかと考えております。

朝、登園・登校してくる子供たちは、家庭であったこと、そして夕方、家に帰ってくる子供たちは、園や学校であったことを、頭のとっぺんから足の先まで全身にメッセージを抱えて、周りにいる大人たちに訴えかけております。このメッセージに気づける大人でありたい。気づける大人であり続けることが大切だと考えますが、齋本教育長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

齋本教育長。〔教育長 齋本修一君登壇〕

○教育長（齋本修一君）

横山議員の熱い思いを私もしっかりと聞かせていただきましたし、受け止めさせていただきました。

やっぱり未来を担う子供の育ちや学びをどういう環境で育てていくのか、応援してあげるのかという部分のところが根本的な部分をしっかりみんなで共有することが一番大事だというふうに思っています。そういった意味で、ゼロ歳から18歳までの子ども一貫教育のグランドデザインの中に、全部の要素が凝縮しているわけです。1年1年積み重ねてきたんですけども、もう一回原点を振り返りながら、それぞれ家庭、園の役割、地域の役割、協働的にコミュニティの中で、地元の子供たちをしっかりと応援しようというふうなムードの機運を高めていく、その辺の部分のところをうんと大事にしながら、一歩ずつ進めてまいりたいと思っております。

やっぱり家庭は家庭、学校は学校だと、そんなのは昔の時代です。これからはやっぱり、いかに力を合わせられるか、いかに目の前の子供たちの幸せのために応援ができるかという部分のところで、精いっぱい努めてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

ひとみかがやく日本一の子供を育てるために必要な施策の答えは、子供たちが持っていると思います。そのことを伝えて、私の一般質問を終わりたいと思います。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、横山議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

ここで、暫時休憩いたします。再開を15分といたします。

〈午前11時07分 休憩〉

〈午前11時15分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、東野恭行議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。〔10番 東野恭行君登壇〕

○10番（東野恭行君）

おはようございます。みらい創造クラブの東野恭行でございます。

発言通告書にのっとり、1回目の質問をさせていただきます。

1、アフターコロナを見据えた糸魚川のまちづくりの展開について。

2020年1月15日に国内で初めて新型コロナウイルスが確認され、3年の月日が経過しました。このパンデミックによる未曾有の経済停滞で、本市においても大きく影響を受けております。

本市が今後も存続していくためには、キャッシュアウトをできるだけ少なくし、地域住民所得の向上を意識することが大切であると考えます。それには地域での得意な分野で所得を稼ぐことはもとより、コロナ禍を契機に「地域外への支出」を見直すことであると考えます。

(1) 交流人口・関係人口の拡大について。

① 市が考える他市町村との持続可能な交流・連携の在り方について伺います。

② コロナ禍になり、ますます人気が高まったアウトドア。キャンプブームが続いていますが、市が後援する「山や海を生かした取組」について伺います。

③ 令和5年度、商工観光課が力を入れて取り組む事業について伺います。

(2) 市内まちづくり団体・事業所存続に向けた取組について。